



年頭ご挨拶

オーディオ(音楽)文化こそ心の絆!

一般社団法人 日本オーディオ協会 会長

校條 亮治

みなさま、明けましておめでとうございます。“おめでとうございます”と素直に言えないことは十分承知していますが“陽はまた昇り、新たな年が始まった”のです。自然への畏怖の念と、今年こそ頑張ろうと言う気持ちを大切に、あえて言わせていただきました。昨年は、本当に大きな災いと激変が世界中に起きました。東日本大震災と津波の襲来、福島第一原子力発電所の崩壊、タイの大洪水発生、欧州金融危機と国の信頼失墜、超円高と株安、中東・アフリカでの政治体制のドミノ倒し的な激変等々、挙げればきりがありません。大げさに言えば、地球上にある全ての仕組みや考え方を一度見直せと言う神の怒りでしょうか。自然を畏怖し、人間本来の営みとは何かを問わずにはいられません。

さて、今年の抱負を述べる前に、オーディオ協会の一年を少し振り返って見ましょう。昨年のご挨拶で申し上げた事は、私たち一人ひとりがアイデンティティーを持ち、「他責」にすることなく全てを「自責」の考え方で臨みたい。そして、オーディオ文化の活性化により、落ち着いた本物の文化の定着を目指したいと言いました。結果は不幸にも東日本大震災によって文化や絆の大切さが露呈し、気づかされたのではないのでしょうか。このことは、被災学校へのオーディオ機器提供で実証されてしまいました。また、具体的には新法人への移行と事業計画の着実な推進による普及活動と、60周年へ向けた取り組み準備を申し上げました。移行も終わり、着実に推進できたものと思います。ただし、TV市場の地デジ化の終了とともにTVは勿論のこと、オーディオ市場も急速に悪化し、前年を下回ったものと推計しています。

年頭に当たって今年の抱負ですが、何といたっても被災者及び被災地復興が第一ですが、そのためにも普遍的な課題として、なおオーディオ文化の復活による、感性価値文化の復活を掲げたいと考えます。オーディオや音楽文化は心と心を繋ぐ重要な役割を担っていることを確信を持って発信したいと考えます。具体的展開として協会は、今年で「創立60周年」を迎えますので記念事業の取り組みを進めます。また、安定的な事業活動と健全な財政基盤に向けた、3ヵ年程度を見通す「中期事業計画」の策定に着手します。ようやく秋葉原での「音展」についても、昨年大ブレイクした「音のサロン」や「セミナー」などの新しい情報発信が着目されるようになってきました。そしてヘッドホンステレオやCDオーディオに継ぐ新たな音源として「ネットワークオーディオ」の成長もあり、新たな芽吹きを感じます。また、日本独自のホームシアター市場構築の活動も着実に理解されだしています。

これらを基本に日本オーディオ協会は、国内に健全なオーディオ市場を再構築するために今年も全力で推進する所存であります。今年こそ“心”を養うためにオーディオ(音楽)文化の高揚を願いたいものです。本年こそ皆様方にとって素晴らしい年であることをご祈念申し上げ、今年も絶大なるご支援をお願い申し上げます。